

岩手県北



太平洋沿岸部に「巡礼の道」東北お遍路プロジェクト

震災の記憶 語り継ぐ

野 田

東日本大震災で被災した八戸市から福島県いわき市まで太平洋沿岸部に「巡礼の道」の創設を目指す、東北お遍路プロジェクト(新妻香織理事長)は16日、野田村の愛宕神社参道広場に岩

手県内初の標柱を設置した。同日、現地で除幕式が行われ、関係者が犠牲者への慰霊と震災の記憶を伝承するとともに、被災地の復興に向けて決意を新たにしました。

(工藤洋平)



野田村に設置された「東北お遍路プロジェクト」の標柱を除幕する関係者

県内初の標柱 愛宕神社参道広場に

同プロジェクトは2011年9月に発足。四国のお遍路のように巡礼地を設け、慰霊と震災の経緯を千年先まで語り継ぐ場所にする取り組み。被災地の交流人口の拡大による復興の一助にしたい考えだ。

これまで4県の62カ所を選定し、将来的に100カ所を目指す。標柱の設置は今回で3カ所目。

標識の設置場所は、震災の際にがれきを食い止めて津波の力を弱めた大鳥居と、明治の津波で多くの人がぶら下がり助かったカエデの木があることから選定された。

除幕式で新妻理事長は「国内外の宗教を超えた多くの人々が歩くことで、つらくても前向きに生き、震災の記憶を語り継いでいけると思う」とあいさつ。小田祐土村長は「村の復旧から復興、地域活性化につなげていきたい」と述べた。

この後、関係者が標柱を除幕し、完成を祝った。

食フェスタinかるまい

軽 米

「食フェスタinかるまい」を迎える今回は、メイン

村民の表札作りに取り組